



広がる夢

子どもたちが心豊かでたくましい生き方を 自ら切り拓いていくために
「一人ひとりが生き生きと活動できる学校」を目指して

いま い きみ
「今」を生きる君たちへ

校長 高橋 秀吉

コロナ禍での2回目の夏休みが終了しました。昨年と違い、通常の長さの夏休みでしたが、短く感じた人もいるでしょうし、長く感じた人もいることとおもいます。時間の感じ方は人それぞれで異なりますし、状況によっても異なります。楽しい時間はあっという間に過ぎ去り、苦しい時間や退屈な時間は長く感じたりもします。みなさんにとって、今年の夏休みはいかがだったでしょうか。

「ピンチはチャンス」という言葉があります。人が生きていくなかで、常に悩みがなく、ストレスもなく、楽しいことばかりということはないでしょう。事の大小はあっても、誰にでもピンチはやってきます。また、相手がいたり、自分ではどうしようもない事柄であったりする場合は、避けようがありません。ピンチがやってきたら、皆さんはどうしますか。

実は、皆さんはちょっとしたピンチを日々乗り越えて成長しているのではないかと感じています。例えば、宿題がなかなか終わらないとか、親を怒らせてしまったとか、あるいは友だちとケンカしてしまったとか。そして、そのつど何とか乗り切っているのではないのでしょうか。その時にはストレスを感じ、困ったなと感じます。しかし、それは何とかしようという気持ちの表れです。つまり、ピンチであると感ずることそのこと自体が、ピンチを乗り越えよう、乗り越えようとする原動力となっています。そして何とかしようともがいているうちに、だいたいは何とかなってしまいます。

こうした日々のピンチを乗り越える体験を通して、皆さんはいろいろなことを学んでいます。多少大げさに言えば、学生時代にピンチを経験すればするほど、人を思いやり、問題を解決したりする力がつき、自分自身で人生を豊かにできる素敵な大人になれるのではないのでしょうか。本牧中学校の職員は、そんな皆さんとともにこれまでと同様に日々を大切に過ごしていきたいと思ひます。

コロナ禍の出口がまだ見えていない状況ですが、「今」を生きる君たちは確実に成長していると確信しています。

